

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

研究課題名

『神経症性障害の長期通院者の特徴～森田療法における神経質性格との関連～』

研究機関名 東邦大学医療センター 大森病院

研究責任者 精神神経科 職位・氏名 教授・根本隆洋

【研究の目的】

神経症性障害は、頻度が高く、うつ病や他の不安障害の合併なども多く、深刻な生活の質の低下を伴う精神障害です。

神経症性障害を主な対象とする治療法として、森田療法があります。森田療法は、精神科医、森田正馬によって1920年頃に創始された精神療法で、不安や恐怖を排除するのではなく「受け入れること」「とらわれ」から脱出するという点、また、自分の中にある健康な力や自然治癒力を最大限に生かしていくという点が特徴です。森田療法では神経症性障害の病気のメカニズムを、「神経質性格」と呼ばれる性格特徴を基盤に、「とらわれの機制」を介して発展すると考えます。

東邦大学医療センター大森病院精神神経科では、神経症性障害の患者様の通院期間と患者様の性格傾向(神経質性格)の関連を調べることを主な目的として、本研究を計画しました。

この研究で得られる成果は、神経症性障害の患者様への医学的理解を深め、治療技法の向上につながり、より適切で治療効果の高い診療につながるものと考えます。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

2010年に東邦大学医療センター大森病院精神神経科を初診(以前の大森病院精神神経科受診から3ヶ月以上経過した再初診患者様を含みます)し、初診時の診断が神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害の方で、2010年1月から2020年12月までの調査期間に大森病院精神神経科に受診した、満15歳以上の患者様を対象とします。対象となる方の診療録(カルテ)から抽出したデータを解析します。

【研究に用いられる試料・情報】

初診時年齢、初診時診断、経過中の診断、最終診断、神経質性格の有無、精神神経科への受診経路、受診時の状況、初診時の臨床全般印象度、問診内容、治療内容(精神療法、薬物療法、その他療法)、症状、臨床経過、受診日数、受診月数、転帰(病気の治療後の経過および結果)、通院終了後の状況、血液検査データ、画像データ、入院、外来の別、大森病院の精神神経科以外の科の受診状況

【外部への試料・情報の提供】

外部への試料・情報の提供はありません。

【研究組織】

東邦大学医療センター大森病院 研究代表医師：根本隆洋 役職：教授

【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはできません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター 大森病院 精神神経科

職位・氏名 助教 松本裕史

電話 03-3762-4151 内線 6770